

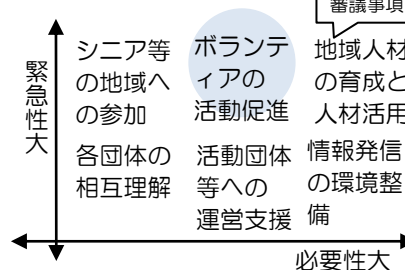
これまでの議論

1. 背景

高齢化や活動の担い手不足等

2. 方向性・課題の抽出

6つの項目・課題に分け緊急性と必要性を基準に検討



3. 審議テーマの決定

- 最優先テーマ **ボランティアの活動促進**
- 優先テーマ 情報発信の環境整備  
シニア等の地域への参加
- 全体へ係る課題 市民活動等への運営支援

4. 審議対象の検討

ボランティアの意識・行動の変化を5つの段階に分けて検討

ステップ1 何らかの活動をしたいと思っているが行き場所がない

ステップ2 ボランティア活動へ一歩を踏み出してみる

ステップ3 活動を通じて、仲間や居場所ができる

ステップ4 リーダーの影響を受けて、成長し自発的な心が芽生える

ステップ5 リーダーになり、同じ意識を持った仲間を集める

5. 具体的な審議内容の設定

ボランティアをしたい人や関心のある人がボランティア活動への一歩を踏み出せるように、受け取りやすい情報発信の仕方やルートなど、

**気軽に参加できる仕組み**を検討する

6. ターゲットの設定

何をしてもなく、なんとなく毎日を「もやもや」と過ごしているシニア世代を想定し仕組みを検討。

7. 仕組み・仕掛けのイメージの検討

ステップ2を更に5段階に分け、「知る、関心を持つ」という点から、仕組みのイメージを検討しました。



ボランティアのPRに有効と思われるキャッチフレーズの活用を検討してみる。

**「ボランティア活動に参加して健康寿命を延ばしましょう！」**

シニア世代等が多く集まる「麻生老人福祉センター」の現地調査を実施→ボランティア活動の情報を効果的に提供することは施設利用者の関心を引ききっかけになる可能性がある

9. 提言の方向性の検討

①効果的な情報発信 (団体 → 区民)

大量に発信されている現状のボランティア関連情報を一元的に管理し、ボランティアに関心のある人に向けて効果的に発信できる仕組みを整える。

②参加への一押し (区民 → 団体)

ボランティア参加へ向けて一歩を踏み出す人を対象とした講座等、背中を押す仕組みを整え、シニア世代等の地域デビューを支援する。

③身近なボランティアの推進 (区民 ⇄ 団体)

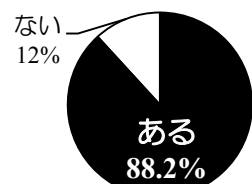
①と②の流れが上手く組み合わせることで、人と団体とのマッチングが円滑に進む。ボランティアが区民の生活や地域の中で身近なものとなる。



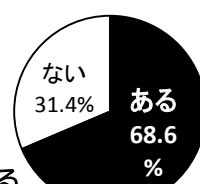
8. 区民との意見交換の実施と分析

健康に関するイベント「麻生区健康づくりのつどい」でブースを開設しました。キャッチフレーズを使用して来場者を集め、127人（男性45人、女性82人）から意見を聴きました。

Q1. ボランティア活動に関心がありますか？



Q2. 活動に参加したことがありますか？

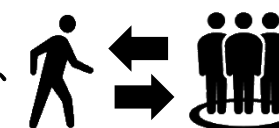


Q1で関心があると答えた人に質問

- 参加への背中を押す＝「友人や知人の誘い」と考えられるが、地域に友人等がいるという前提での話であった。地域内に友人等が少ない人（特に男性）に対しては別の仕掛けが必要と思われる。
- 話を聞くとボランティア活動を始めようと思いつききっかけは、一人一人異なる。まだまだ活躍できる場があると思わせる仕掛けが必要。一歩を踏み出すためのストーリーづくりに協力できればよい。
- 情報があれば参加するという意見も多かったが、現在も様々な媒体で情報発信はされている。団体が出した情報が必ずしも区民に届いていないということがわかった。何か噛み合っていない印象を受ける。

●気軽に参加できる仕組みの検討にあたっての新たな見方

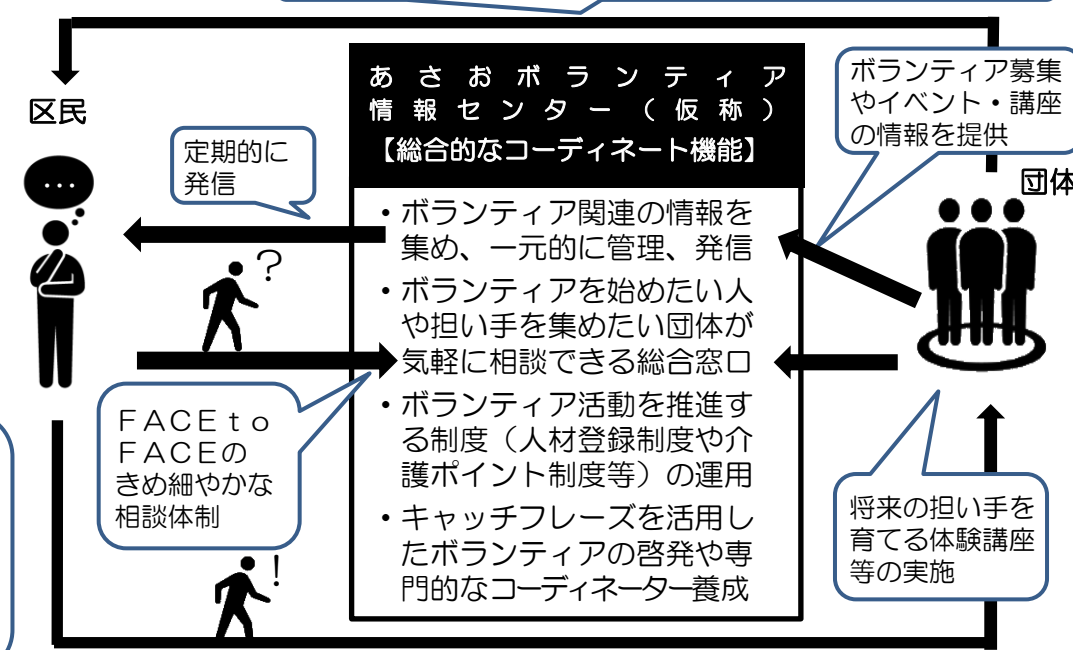
ボランティア活動へ一歩を踏み出したい人、ボランティアを集めたい団体、その双方からの **流れをよくする** という視点から改めて検討してみる。



ボランティア活動に気軽に参加できる理想的な仕組み

ボランティア活動に参加することも、ボランティアを受けることも、身近に感じる環境が整い、区全体にボランティアが浸透していく。

チラシを「手渡し」して友人・知人に直接参加を呼びかける



提言

理想的な仕組みに向けて、今ある組織や制度、地域資源等を活用し、実現性の高い提言を検討 ※2～3月部会

世田谷ボランティアセンター視察

審議のヒントを得るため、委員6名が12月10日に世田谷ボランティア協会（理事長・興梶寛氏）が運営する施設※を視察し施設担当者にヒアリングを実施しました。 ※同センターでは、ボランティアコーディネーターの相談窓口、人と団体をつなげる仕組みの「おたがいさまBank」、情報紙「セボネ」の発行等を行っています。

視察結果

- 行けばやりたいことが見つかる環境が整えられている。アットホームな環境である。
- 相談窓口が平日夜まで開いている。勤め人や学生も利用している。
- 世田谷区はボランティアが生活の中に溶け込んでいる。
- 団体に対しての助言が丁寧。かゆいところに手が届く運営をしている。
- マッチングでは、単に情報を流すよりも、FACE to FACEの関係で、きめ細かい対応を重視している。

区民会議フォーラム 「健康寿命を延ばすには？」

月日：2月21日（日）  
内容：高齢者の社会参加と健康維持について研究されている藤原佳典氏を招いて、参加者に、地域とのつながりの中で楽しく健康に暮らすためのヒントを伝えます。

今後の検討事項

フォーラムアンケート検証

提言取りまとめ

提言